

6章：親が子へ「落ちる」「滑る」よりも

言うてはいけない言葉！

小6夏の夏季講習と夏合宿から塾に通い出した息子、受験が近づくにつれ、塾の催しで親向けの受験説明会が何度かあった。その度に塾の先生から、家庭でのアドバイスとしてこの時期は特に、「落ちる」「滑る」等のマイナスな言葉は言わないでくださいね。出来るだけ、ポジティブな言葉で褒めてあげてくださいね。

だが個人的には、この時期をあえて特別にしてしまう必要はないのではないかなと思う。出来る限り普段と変わらず、リラックスすることの方がより勉強に集中出来ると思う。変に子どもに気を使って褒めたり、テーブルから何か物が落ちた時や、外出時に雨で足元が悪いから滑らないように子どもを心配する時にも、何故か子どもに気を使い変な雰囲気になる。そんな毎日が一定期間とはいえ、子どもも親も疲弊してしまう。その労力は本来勉強に向けるべきだと思う。ちなみに、歴史に残るような偉人や、尊敬に値するような人物の幼い頃の親子の思い出は、私の知る限り厳しい父親が必ず存在していたように思う。間違ったことは叱り、良いことをしたら褒める。言霊信仰が日本人にはあるからという人もいるが、であれば「受かる受かる・・・」と毎日呪文のように繰り返す

返せばよいし、そういう人に限って、口で言うだけでは合格出来ないと都合の良いことばかり言う。物が落ちる事象が起こることと、自分が受験に落ちることを変に結びつける必要はない。

どちらにしろ、「落ちる」「滑る」より親が子に言ってはいけないことは・・・

※全文をご覧になりたい方は小冊子プレゼントフォームへお進みください。